

SHARP

シャープ社友会

栃木支部

1999/1

新春号 (第2号)

日光

栃木



タイトル： 紺碧の空に、燦々と輝く日の光、緑豊かな大地。自然に恵まれた栃木をシンボルします。と、同時に当地を代表する観光名所“日光”を顕わします。

カラーコンセプト： 日光の赤 (R)、栃木の緑 (G)、バックの青 (B) は、カラーテレビの信号の、R・G・Bをイメージし、AVシステム事業本部のルーツを象徴します。同時に、グリーンは社友会のシンボルカラーでもあります。

迎春

支部長

浦川正司

栃木支部会報「日光」第二号発行に際して創刊号を昨日発刊したように思いますが、月日の過ぎるのが早いもので、もう年も改まり平成十一年を迎えます。

昨年を振り返り見ますと、夫れ夫れに色んな思い出が楽しく駆け巡る事と推察致します。

支部として振り返ると、残念なことですが例年と同じで特筆すべき事柄はありません。でも、みんなと顔を合わせる機会を増やすことが出来ました。

労組三十周年記念行事に特別参加し、お座敷電車で東北夏祭り（山形花笠踊り、仙台七夕）見物に出掛けました。お座敷電車は皆さん始めての方が多く楽しめました。花笠を見物する前に歓談に花が咲きカラオケも飛出し旅が一段と盛り上がりました。

秋は慣例の支部懇親旅行（三保の松原、久能山東照宮、清水湊は鬼より恐い次郎長の国など）見物。平素はコミニケーションのとりにくい会員の皆様と又奥様も同伴頂き、楽しい秋を満喫致しました。少し残念なことは参加される方が、少なく会員数の四割程度です、企画幹事さんの頑張りに応えて、行事参加を切望致します。

支部発足十年が過ぎました、しかし社友会というせつかくの組織があつて、豊かな人材が揃つて居て、ただ行事と言へば、新年会、旅行・・・では寂しい気がします。趣味を同じくし、腕や知識を磨きあう同好会活動の交流の輪を広げて行きたいものです。

いまクラブ活動でゴルフ・クラブのみが活発に活動されて居ます。他にもクラブは有りますが冬眠していません、ぜひともこの機会に再起させたいものです。

個人では健康のために日ごろウォーキングを楽しんで居る方が多いようです、そこで「歩こう会」を企画して見ると幹事会に提案しています。賛同される方は、担当幹事さんに申し込みください。

新年を迎え「道」とは何かを考えています。道にはいろんな道がある。田園の中を直線に伸びている道、曲がりくねった山道や上り下りの峠道、断崖絶壁に細く続く道、いろんな道がある。

考えてみると「道は」人生の縮図を見て見ると面白い。いま振り返って見るとどの道も歩んだかな、

当時は若さに任せて随分無理をして歩んだと思う、壮年時代は冒険した道を歩いたと思われる。

いずれにしろ人は皆生まれながら初めて昔先輩たちに言われた言葉「人生の道」が分かった様に思える。

私は今シルバードに学び残された人生をどのように歩いて行くか思考しています。

生涯学習と人は簡単に口にしますが、学習も道と同じで一口に平坦ではない。山あり谷あり紆余曲折である。まして高齢になれば根気に欠けてくる面が出てくる、そのところを我慢して努力することが大切と分かつているがなかなか出来ない。早く田園の道を思い出しまつすぐに勉学に頑張らねばと心します。

でも人はそれぞれ趣味嗜好が異なるように歩いて来た道も異なります。そこで私は次の様に考えて歩く事にしています。心臓さんが動いている間は愚痴を言わずに目標に向かつて進む。健康なときも、病める時も心臓は休んだことがない、生きて居ることに感謝し自分が求めたこの道を歩み通したいと願っています。

「道、果てしなく続く歩み続けよう」



この大祭は、陽の餅を神前に供え、五穀豊穡と災難消除を祈つて、約10年に1度盛大に奉納される大祭で、古人から熊野神社に伝わる行事で、和歌山の熊野本宮大社を参拝した若衆が主体となつて行われてきた。

熊野神社 主祭神は、伊弉諾尊 (イザナギノミコト) 伊弉冉尊 (イザナミノミコト)
創立は、弘仁13年 (822年) 嵯峨天皇の代と伝えられている。

熊野講奉納 古くから奉納されてきたが戦後は昭和27・32・51・63年に奉納された。

1. 採火式 (太陽から陽を頂く神事)
 - (1) 社殿内外を掃き浄め、本宮を参拝してきた男子講中などが集い、厳粛な礼拝を行い神官が太陽から聖なる火をレンズなどで採火し献灯する。
 - (2) 献灯された陽の火は祭りの日まで昼夜を通し、おこもりをして保存される。
2. 陽の餅 (太陽から頂いた聖なる火で餅米を蒸かしてついた餅)
 - (1) 前日までに境内は紅白幕、しめ縄、テントが張りめぐらされ、カマド、餅つき所、みそぎ所、接待所その他が設けられる。
 - (2) つき手は、熊野本宮を参拝した若衆議中がみそぎをして、白装束を身にまとい神前に勢揃いし、お祓いと祈願の神事を行い献灯され火をカマドに移し餅米を蒸しはじめる。
 - (3) 白装束姿の若衆が餅つき所に集まり、御神酒と塩で清めながら蒸しあがった第1臼を力強い掛け声に合わせつきはじめ、続いて第2日、第3日と次々につきあげられる。
 - (4) 次々につきあげられた餅は、鏡餅として神前に供えられる。
その後そのお供えは小さく切つて氏子に配られる。
3. 散らし餅 (一般参加の若衆がついた餅)
 - (1) 祭り2日目につく餅で、つき手は必ず祭半末 (ハッピー) でキリリと身支度をして、前日の陽の餅つきと同様に行われ、時には餅を杵 (キネ) の上にかざして道路を勢いよくねり歩くこともある。
 - (2) ついた餅は、神社に参拝された人達にアッコ餅、キナコ餅、カラミ餅などにしてふるまわれる。

氏子はもとより地域の絶大な協力で盛大に行われた熊野講大祭も地元の地方々は勿論、親類縁者まで多くの参詣者でにぎわい、明日をにう力強い迫力のある祭、そして地域の融和をもたらす祭として伝承されている。

乙畑熊野神社伝承行事
熊野講もちつき奉納大祭

副支部長

石塚忠

「私の趣味はアマチュア無線」 古山 伊和夫

趣味と言うものは、何か目的をもった遊びと考えがちですが、退職したとは言えまだ人生の三分の一は残っているのです、大切にしないといけない『仕事』ではないかと考えています。

さて今回私の趣味の一つを紹介させていただきます。

それはアマチュア無線です。
 今から二十余年余り前、子供にもあまり手が掛からなくなつたので、単に何かをするのでなく、一人だけでも楽しんで又積極的に他の人に働きかける事ができる趣味はないかと考え、始めたのが、テレビの設計の仕事をしていた関係もあり、電気に関係のあるアマチュア無線です。これは趣味でありながら国家試験もありますが、少し勉強すれば初級(4級)なら誰でも取得できます。

アマチュア無線の魅力の一つは、何と云っても、外国など遠くにいながら、同じ時間に同じ周波数で電波を出している人と偶然に会い、いろいろな話がでることです。

話をすると云つても、それにはいろいろな方法があります。

- ・ 音声によるいわゆる電話のような方法(これが基本)。
- ・ 電信(トント)の場合。
- ・ テレタイプと云ってパソコンのキーボードをたたいて文字で行う話。
- ・ 最近ではSSTVと云って、一枚の写真を送り、その写真を元に話しをすることも盛んになってきました。

私はTVに関係していたこともあり、このSSTVの交信に以前から力を入れています。

SSTVで写真を送るためにはそれなりの装置が必要のため、トランジスタやICを集めて半田付けをして回路を組み立てました。・・・組み立てた回路が働いた時の喜びもまた、この趣味の楽しみの一つです。最近はこの装置の機能もパソコンのソフトのみで実現できるようになったので、SSTVを手軽に楽しむ人が増加しています。

送る写真はビデオカメラで撮影した映像で良いのですが、単に写真だけでは面白くありません。その写真に名前や住所を書きこんだり、場合によっては風景写真に自分の顔写真をスーパーインポーズして話題

を広げます。

そのためにはどうしてもパソコンを使った映像加工が必要になりますので、今ではパソコンと無線を組み合わせた趣味に変化してきています。ですから、無線機の隣にパソコンとカメラを並べた部屋に居ると時間が経つのも忘れれます。(このパソコンの楽しみ方については次の機会に書かせていただきます)

アマチュア無線はひとり部屋にこもつて楽しむと言うだけではありません。この地域にも無線を楽しむ人は大勢いますので、クラブを作つて情報交換をし、お互いに技術の向上に努めると共に忘年会・新年会・芋煮会など仲間との飲み会も楽しみの一つです。

このアマチュア無線も、遠くの人と多く話しをするためには相手が受信できるように大電力の電波を送信しなければなりません。そのためには、四級の資格より二級や一級というように上級の資格を取つて、大電力の電波を発射する認可を得なければなりません。

そこでこの退職を機に頭の活性化と再勉強を兼ねて一級に挑戦することにしました。

試験は無線工学・法規・電信(トント)ですが、特に電信は一秒間に一文字の受信が出来なければなりません。この固まった頭の回転と衰えた書く力では・・・テープに録音したトントを聞く毎日が数ヶ月続きました。(皆さんやつてみてください。a, b, c, d, と一分間に六〇文字を書くだけでもかなり努力がいるのです。)

努力の甲斐あつて昨年末の試験では一発で合格。まだまだ俺の頭も使えるわい・・・

一級に合格すると一KW(一〇〇〇ワット)の電波を出す認可が得られます。一KWと言つても皆さんピンとこないかもしれませんが。あの鳥が森にある栃木放送の送信所の電力が同じと言つたら、一KWが如何に大きいかがおわかりいただけるのではないのでしょうか。

しかしこんな大きな電波を出したのでは家中が電波だらけになつてしま

いどうなることやら?

これからどうしようか思索している今日この頃です。

N響演奏会のエピソード

大和田 実

NHK交響楽団の演奏会が昨年十月十八日、那須野が原ハーモニーホールで行われました。これはその時のエピソードであります。

N響は国際レベルのオーケストラであり、地方の小さな町での演奏会は滅多に行われません。それはプロの交響楽団として、収支面は勿論、音響施設面も考慮するからであります。

聞くところによりますと、N響は客席数、五千を見込んでいたらしい。当ホールは客席全数約千三百、当日はほぼ満席の状況ではありましたが、見込み違いがあったと思われまます。

一方音響施設は、大田原市と西那須野町の共同運営のコンサートホールであり、その音響効果には定評があります。両自治体のサポートにより、今までも著名の演奏会が数多く行われて来ました。

いづれにしても、今回N響の迫力あるストリングス（ほぼ六十人）の生演奏を鑑賞することができました。しかし、N響演奏会は収支面から今回限りの様に思われました。

「趣味？」 柏原武司

退職当初は旅行などで忙しいが、一通り廻ってしまおうと後は何をしてよいのか暇を持て余して困るので、何か趣味を持たねばとよく聞かされておりましたが、私にはどうやら当てはまらなかったようです。

元来私自身、趣味の範囲が広くスポーツ特にゴルフ、植木庭仕事、園芸、海釣り、大工左官仕事、ドライブ、写真、等々、下手の横好き？かも知れませんが一応のレベル迄は出来るように努力してきました。

退職を機に、在職中にはボリュームが大きく取り組めなかつた多くの懸案の実行に取り掛かり多忙な毎日で一年半が瞬く間に過ぎてしまいました。

意欲的に取り組んだ成果は「四〇坪の庭の春秋の抜本的手入れ」、「三部屋と廊下（計三十畳）のフローリング工事」、「五部屋の壁塗り」（塗装・クロス貼り・綿壁等ではない！）、「洋蘭等五〇鉢収容の温室作成」、家屋内の改造等、人に頼めば出費の大きい案件が完了しました。

振り返ってみて、これらは材料の購入等も絡み、衝動的ではなく計画的に取り組んでいかなければ中途半端になり成果も不満足な事態となり行き詰まってしまう

と、心して取り組んだ結果と思えます。趣味といえども庭仕事や植木関係では植物の知識、土や肥料の知識、大工仕事などでは、各種材料の知識、手配方法、加工方法、これらを生かし切る幅広い知識と技能が必要となります。私の場合、長年育んで来た趣味と在職中に得た知識経験が役に立ち、あとは自分自身のやる気と執念でした。

ある面では趣味の領域をこえる場合も生じ自分の能力に合った構想計画が大切で、成否の七〇%を決めると考えます。

ゴルフも練習が健康維持にも役立つとともに、ハンデキヤップも五つ減らすことができました。芸は身を助けるの譬えどおり、今では幅広い趣味が身を助けています。

当面懸案の大きなテーマは完了したので、今後は定例的な季節作業の年間計画と実行、一度も行っていない家族旅行や時間がなくて一度しか行けなかつた釣りに行脚、写真等、意欲的に且つ体調にも十分注意し時間をつくって実現する予定です。併せてボケ防止のためにも広範囲な好奇心をもち、知識の吸収と技能面の能力向上、創造的取り組みを継続していきたいとかがえています。

“98サマーフェスティバル”チャリティバザーに出展

去る7月25日(土)、シャープグランド(AV機器事業本部内)に於いて、“98サマーフェスティバル”が開催され、約8,500名の来場者で大いに賑わいました。

社友会栃木支部と致しましては、例年通りチャリティバザーをメインステージ脇の一角に出店し参加致しました。当日は、まだ梅雨の明けない、不安定な天気予報ではありましたが、幸いにも日中は暑い日が差す絶好の天気となり、順調な人出で子供も大人も和やかな雰囲気、会場は終始盛り上がり呈しておりました。

今回で第4回目となる当バザーについては、役員を始め会員各位のご理解とご協力のもとに、各ご家庭で不要になっている品々を、多数ご提供戴くことが出来ました。

これら事前に値付けしたものを、当日役員幹事の方全員で、見栄えよく陳列する準備を正午から始め、午後1時に終えたころ、先客が現れ午後2時を過ぎるころには、繁盛ぶりを示し、お買い得品の早い者勝ちと言わんばかりに、毎年のお得意客そしてお買い物上手なご婦人方々が、品選択に眼を輝かせ更に値引きを求める等の、購買心理を目の当たりにして、買って良かったと想って貰えるようにとサービスに努め、又、終盤には値引きしてでも売れ残りはしたくないとの願いから、役員皆で慣れない売り子に熱中したかい有って、午後4時には全ての品物を完売することが出来ました。

尚、チャリティバザーと同時に行った“愛の募金”についてもバザーで買った値引き分、或いは財布の中の小銭、又、役員3役による会場本部席へ出向き、来賓客に協力をお願いする等、多数賛同していただいたお陰で、目標以上の金額を集めることが出来ました。

詳細報告

(バザー提供品総点数……………165点)

①バザー売上金	¥38,490円
②愛の募金	¥27,117円
合計金額	¥65,607円

内、¥65,000円を矢板市老人福祉協会へ寄付、残¥607円は支部会計へ入金。
皆さんのご協力ありがとうございました。次回も宜しく!

(会場風景 9ページに掲載。)

(中村 茂. 記)

秋の懇親旅行

駿河の旅 田中 勇

懇親旅行が十月二十六日〜二十七日に行なわれた。シャープAVシステム事業本部体育館を六時二十分に出発、矢板ICより例年より半月遅れの草木が色付始めた東北道に乗って東京方面に走行する。参加者は奥様方を含め三十三名、浦和より首都高速、東京用賀ICを経て東名高速に入り海老名SAで休憩、予定より約一時間早い。不景気の関係で車の量が少ない為と思う。

ここから酒ツマミが入りカラオケ等で熱気に溢れる。

富士山だ” 今回は運が良く裾野迄見える。沼津で昼食 清水次郎長の菩提寺、梅蔭寺に参拝、大木の松並木が見えて来た、三保の松原天女の羽衣の松伝説はロマンと想像を豊かにしてくれる。

登呂遺跡を見て 焼津のホテル三景苑に着く海岸沿いの松林の中にある。懇親会は支部長の挨拶があり、新鮮な海の幸を味いながら、会員の親睦を深め波を枕に夢に入った。

一十七日石原マリンド海産物、静岡観光茶園で見物、味見と土産、ミカンが色付き始めた車窓を見ながら 日本平に着く。ケールブルカーで家康由来の久能山東照宮を参拝、珠色の絵構成が日光東照宮に似ている。

日本平ちゃつきり亭で昼食、矢板へ午後六時無事着いた。

想い出の土産と、再会出来る事を祈りつつ家路に着いた。(記念写真8ページに掲載)

東北夏祭に酔って

中村 茂

シャープ労組栃木支部結成三〇周年記念ツアー、東北夏まつりの旅が盛夏の八月五・六日、好天に恵まれて、みちのくの旅、芭蕉ゆかりの山寺をはじめ、東北二大まつり（山形―花笠まつり・仙台―七夕まつり）を、参加者百二十五名（内当社友会二十五名、夫人六名含む）で、六両編成のお座敷列車と大型バス三台により二日間を満喫した。

第一日目、集合場所JR矢板駅に、全員軽やかな服装で参集、お座敷列車の五両目に乗車、午前八時四十五分定刻発車、しばらくして車内放送で労組、池沢執行委員長の挨拶、車窓の景色を楽しみながら、掘リコタツ形式の座席で食って飲んで歌っての瞬く間の三時間、白石駅で下車する。

後はバスの一号車に乗り先ずは白石うーめん茶屋で昼食をとり、高速自動車道白石ICから村田JC經由山形ICへと向かい、山寺に午後二時三十分到着。

ここで一時間の自由行動、健脚者は奥の院まで千十五段の石段を登り、途中にある舞台造りの五大堂からの眺めは、絶景そのものと満喫。次は本日の宿である天童市のホテル王将に到着午後四時丁度、手荷物を部屋に置いてすぐ、大広間で会食を三十分間で済ませ、再びバスで四十分間、本日のメインである花笠まつり会場に着、予め準備された沿道の敷席で見物、午後六時開始ともなると、正に東北三大まつりの一つという感じの規模の大きさに圧倒されると共に、その華やかさ美しさと多くの人出に驚くばかりであり、好天に恵まれ最高の盛り上がりでありました。

午後八時まつり会場を後にしホテル王将の、温泉につかり旅の疲れを癒しそれぞれ床に就く。

第二日目、ホテルを午前八時三十分に出発、先ずは将棋会館で駒造りの実演を見学して、一路仙台へと向かう。

途中ニツカウイスキー仙台工場を見学、その後ウイスキーやアツプルワインの試飲を戴きほんのり陽気、同所のバーベキュー食堂で昼食、その後は二つ目の祭り会場へ向かう、仙台市役所前でバスから降車、七夕まつり会場は約二時間間の自由行動で集合はJR仙台駅、その間は約二キロに及ぶ商店街に爛漫豪華な七夕飾りのトンネルとも言える中で、カメラ撮影を楽しみながらの見物は素晴らしい一言に尽きる。二日間の東北まつりの旅もここ仙台を最後に、午後三時五十二分発のお座敷列車で矢板駅迄の四時間の帰途につき、全員無事に予定時刻午後七時四十分矢板駅に到着、夫れ夫れの旅の思い出と、お土産を持って家路についた。

シャープ労組栃木支部役員各位のご尽力、ご苦勞に、感謝致しております。

（祭り風景 9 ページに掲載）



1998

イベント アルバム



秋の懇親旅行

平成十年十月二十六日～二十七日

遠州駿河の旅

梅蔭寺↓三保の松原↓登呂遺跡↓
焼津(泊)↓日本平↓久能山東照宮
等を周遊 秋の二日間を楽しみました。



第十回栃木支部 総会

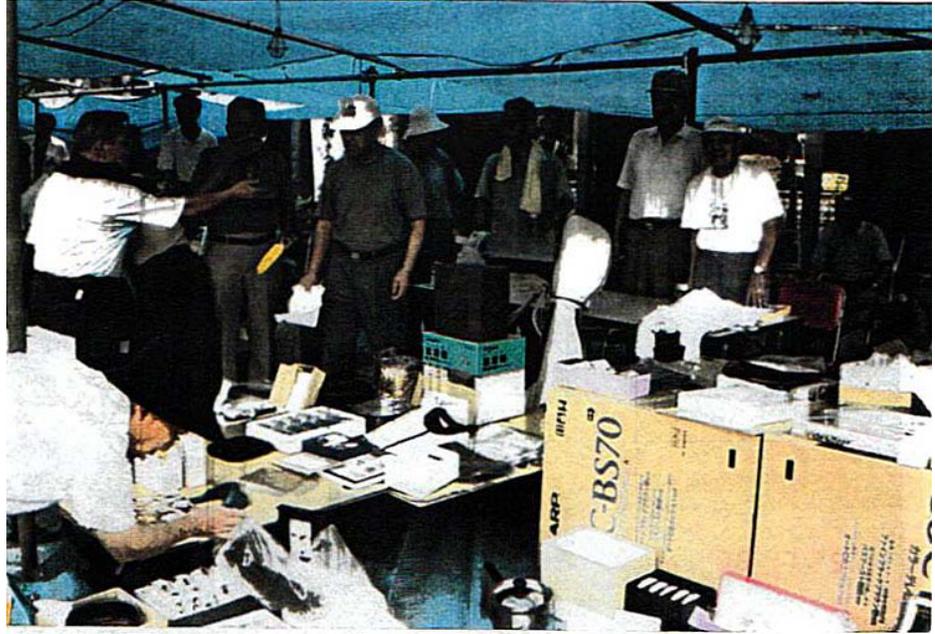
平成十年五月二十四日 (日)

西那須野町乃木温泉ホテル会館にて開催。
当日本部より太田会長のご臨席を賜り
栃木支部設立十周年を祝う。
参加者全員に支部会報創刊号を配布。

シャープグループに於いて、社友会も四回目
の参加となり、チャリテイバザの出席も
員みなさんからの暖かいご提供も百六十五
点に達し、瞬く間に完売。愛の収益金を、
矢板市老人福祉協会へ寄付しました。

シャープサマーフェスティバル開催

平成十年七月十九日(土)



東北夏祭りの旅 (特別企画)

平成十年八月五日(六日)

シャープ労組栃木支部結成三十周年記念特別企画に社友会から二十五名(内奥様方六名)が参加、矢板駅より、お座敷列車で山形花笠踊り、仙台七夕祭りの旅を楽しみました。



事務局よりの御願い

平成十一年も、事務局と致しましては、より楽しい催し、クラブ活動を企画して参りたい所存で御座いますが、より多くの会員皆様方が、御参加下さいます様御願い致します。

事務局長

中村 義雄

(沖縄・天仁屋エリアにて)



スカイスポーツに 一度挑戦してみませんか？

林 由三郎

「エーッ！ここから飛ぶの？」
那覇空港から車で約一時間、天仁屋エリアに着いた時、最初に口からでたのはこの言葉でした。

先に準備の出来たフライヤー達は、海に突き出た崖っ淵から、海に向かって次々と飛び立って行きます。山飛びの経験しかない私に取って、海に向かって飛び立つのは初めての経験でした。

雲上に顔を出す富士山に向かって、飛び立つ甲府白根のエリア、眼前に聳え立つ榛名山を見ながら飛ぶ伊香保のエリア、西に朝日岳、北に月山、東に蔵王を望む山形の白鷹山エリア等など、栃木県周辺にも私の経験した山飛びの素的なエリアは多々あります。初めてのエリアでテイクオフに立って周辺の景色を見渡した時、いつもその素晴らしさに感激します。長雨の続く本州を離れる事三時間弱、沖縄の空は青く澄み渡り、珊瑚が透けて見える海は飽くまで青く、強い陽射しを

受けながら飛びまわった夜は、宿のお姉さんの蛇皮線を聞きながら砂浜でのバーベキュー、二〇才台から六〇才台迄と幅広い年齢層で又色々異なった職業や人生経験を持つパラの仲間達と、談笑しながらのパーティー。パラグライダーをやっているつくづく良かったと考えるのはいつもこのような時です。

パラグライダーを始めたのは全くの偶然でした。里帰りしていた長女と鹿沼のしゃくなげ公園へ行く途中、パラグライダーの看板を見付け、帰りに立ち寄り見学したのがきっかけでした。初めての山頂のテイクオフに立った時、“この崖から跳び降りるのか 恐ろしい”と思いましたが、インストラクターが鮮やかな手捌きで、テイクオフからユックリと上空に舞い上がる様に飛び立って行くのを見て、今までの誤解に気付くと共に“何だ、私でも練習すればやれそうだな”とそんな気持ちになったのを覚えています。

幼児の時、空を飛ぶトンビを眺め、どうして羽ばたきをせず大空を飛べるのだろうか、何故くるくる輪を画く様に飛ぶのだろうか、と不思議に思ったり、バタバタと腕を羽ばたく様に振ると、身体がフワリと空中に上る夢を見た記憶もあります。中学校では校庭で多くの生徒がゴム紐を引っ張り、一人が操縦棒を握って飛ぶ、小型のグライダーがありました。飛べるのは専ら上級生だけでした。早く飛んでみたいと思っていたのに終戦で敢え無く中止、グライダーは解体され処分されたくやしい思い出もあります。飛ぶと言ってもせいぜい地上二〜三メートル、距離も数十メートルの直線飛行でした。

人間にとつて太古の昔から空を飛びまわる事は夢だったに違いありません。パラグライダーはヨーロッパでは大変盛んで、エールフランスのパイロットが成田に着いた直後、休暇を利用して飛びに来るのもうなずけます。密室の中で計器に囲まれて空を飛ぶのと、風を直接身体に受け、上昇気流を見付けては、そこから外れない様に、まるでトンビの様に輪を画く様に飛ぶのとは、全く性質の違うものなのです。

空を飛ぶなんてとても危険ではないかと考える人も多いとおもいます。その通り危険が全く無いとは言えません。

しかし登山、魚釣り、スキー、サーフィン、スキューバダイビングなど、自然界を相手にする屋外スポーツは必ず危険と背中合わせです。従って決して無理をしない事が大切です。遠くここまでできたのだからと、どんなスポーツでも無理に決行するのは危険で、気象条件や体調の悪い時は、いさぎよく諦める事が大切です。

遠くから数時間掛けで来る人達と違って、直ぐ近くに飛べる処がある宇都宮近辺に在住する私達にとつては、何とも幸せと考えるべきなのでしょう。ここ一〇年程で機体の進歩やエリヤの整備は素晴らしいものがあります。思い立った日にすぐ大空に飛べるのです。タンデム（二人乗り）であればインストラクターが操縦して一緒に飛んでくれます。一度大空を飛び廻ってみたいと思う夢を、実現するには一寸した勇気を出しさえすれば、その素晴らしさが体験出来るのです。

少し話は変わりますが私が運転免許を取ったのは昭和三十三年、素人の運転は非常に危険だと多くの人に言われた記憶があります。今では誰でも日常生活に欠かせないものになりました。それでも冬の雪路やアイスバーンでの運転は非常に危険です。そのような時に出来るかぎり運転を避けるのが賢明なのは言うまでもありません。

でもありません。

”今日は雲底が低いので余り高度を上げない様に”と無線を受けた時には既に足の下に薄い霧状のガスが走りだし、自分の意志に関係無くどんどん機体が上昇する”吸い上げ”に遭遇した事があります。地上のあちこちで暖められ発生した上昇気流が、まとまって大きな上昇気流となり、上空には大きな雲が発達している時に、このような現象がおきます。すぐに習得した両翼端折りで無事下降しました。適切な教習を受けていれば、自分の技量に合わせて飛ぶ限り安全です。

このような経験は後で結構楽しい思いになると共に、更に技術の上達を心がける励みにもなります。

達成感を満足させるスポーツは多々ありますが、多少のスリルと大きな刺激のあるパラグライダーのようなスポーツは、他に無いと思えますので一度挑戦してみたいかがでしょうか。

誤った先入観を捨て、日本中いや世界各地と一緒に飛び廻りませんか？連絡をお待ちしています。

一人でも多くのパラの仲間の出来ることを希望しています。

「第二の故郷」

鳥居勉

私が生まれ育った所は、兵庫県津名郡東浦町。「阪神淡路大震災と明石海峡大橋」で一躍有名になった「淡路島」です。

中学生の時に、家庭の事情で大阪へ引越し、大阪の学校を卒業。当時の「早川電機」に入社。社会人としての第一歩を踏み出しました。

入社一年後に、東京支店に転勤となり、会社の独身寮で約三年。その後、神戸営業所勤務を経て（本社）無線事業部へ帰りやつと「振り出し」に戻ることができました。

本社から三十分強で通勤可能な堺市に住宅を購入し、「これからは地元で安定した生活を・・・」と思いつつ、仕事に励む日々を過ごしていたものです。

昭和四十三年、栃木県に新しい工場が建設され「カラーテレビとステレオを生産する」とのこと。私は、白黒テレビ関係の部署だったこともあり「栃木工場へ行かれる人は、大変だなー」程度の認識で、第一陣を見送りました。ところが「現実はその甘くないものではない。」ことを思い知らされる事態が勃発。

昭和四十六年、（本社）田辺工場を閉鎖し、無線事業部全てが栃木工場へ移転することが決まり。表現はともかく、「矢板へ行くか、会社を

辞めるか、二者択一だ。」と脅かされ、慌てて日本地図を引っ張り出して「栃木県矢板市」を血眼で探さざるを得ぬ羽目に陥りました。（当時の私にとつて東京より北は、全く未知の国であり、栃木県の位置すら良く判らぬ状況。）私が渋々「矢板」に向かったのは昭和四十七年七月七日

「七夕」の早朝でした。車に布団と衣類を積み込んで、阪神高速「堺市インター」に入り、名神・東名・首都高速・東北と高速道路を乗り継ぎながら、ひたすら走り続け、やつとの思いで「鹿沼インター」に辿りつきました。（当時の東北道は鹿沼までしか開通していなかった。）更に国道四号線を地図を片手に北上し、夕方になり早明寮に到着した時には、ホッとすると同時に「えらいところへ来たものだ。」が実感でした。

一年後に、現住所「西那須野」に居を構え、家族を呼び寄せ、「やれやれ一段落した。」と胸を撫でおろしたのを、つい先日のように思い出せます。長女が小学三年生・次女が幼稚園児・三女が二才・長男が生後六ヶ月の時でした。

女房は都会育ちで不器用なので、買い物に行く為の必需品だった自転車に乗る練習から始めねばならず、全く「泣きつ面に蜂」状態でした。

あれから二十六年、今や自転車にも乗れなかった女房が車を乗り回し、地元の友達と共に「完璧な栃木のオバサン」をやっていますし、子供達も「バリバリの栃木ッ子」として育ち、長女は横浜に嫁ぎ、二児の母親となり、次女も今年六月に結婚し千葉に住み、三女は西那須野町庁舎に勤務、長男は一年前に製薬会社に入社、東京の独身寮暮らし、と各々社会人として何とか「一人立ち」してくれました。

関西方面から来られ、当地に根を下ろされた方は、私同様の体験をされたのではないかと思います。しかし、今では若き日の貴重な経験であり、「懐かしく、楽しい思い出」となっています。

子供達にとつては正に「ふるさと」は「栃木」であり、私にとつても「栃木」が「第二のふるさと」となり、奇麗な空気・豊かな自然に恵まれ、人情厚き「栃木」。

今では、「あなたのふるさととは？」と聞かれたら「生まれは淡路島ですが第二のふるすとは栃木です。」と答えられる様になりました。この歳になつて「住めば都」と言う言葉を現実として捉えることができたことに感謝!! 感謝!!

『慶喜さん』

富岡 堯子

晦日そばに思い 徳田 浩

母の実家は、戦前『士族』という身分であったので、『平民』で他所者の父と結婚する時、多少の摩擦があったらしい。学歴も母の方が高かった。しかし、父は将来を約束された官吏であつて、年令も十才上であつたので、外見的な釣り合いは取れていた。問題は母子の内面である。まず、絶対に自分の子を誇めたことがない！

私は子供の頃、百点を取る事が多かったが、母は「当たり前」と言っていた。又、「暑い」と許えると、「心頭を滅却すれば火も又涼し」。「寒い」と言えば、「お母さんの子供の頃は、冬でもタビなど履かなかつた」——など、など。母君を冷たく見て、傍らへ寄りかかるともせぬ七郎麿。若尾文子扮する、有栖川宮より御降嫁の登美宮吉子女王は、母子を引き離れた夫君の、烈公齊昭を非難して、質素な着物の袖口を目に当てる。

NHK大河ドラマ『徳川慶喜』を見て、私はこき母をはじめて理解した。それにしても、先祖の『ゴザエモン殿』（光圀公の御指南番で剣の達人）が見いだされたのが、『水戸様』ではなくて、『加賀様』あたりだつたら良かったのに、と嘆息する私。

大晦日に蕎麦を喰う風習は日本の各地で多く行なわれているらしい。関西でも、この日ばかりは蕎麦を食する、この様な風習が生れたのは、江戸時代と言ふ事であるが、蕎麦自体の日本への渡来は、ものの本によれば室町時代であるそう。つまり一般化したのは江戸時代なのだ。

蕎麦自体は決して高級な食べ物ではなかつた。むしろ庶民の食する大衆的な食べ物であつたことは確かである。毎年大晦日に多くのTV番組で各地の有名な蕎麦屋の歳末風景が放映されているが、どのレポーターも、異口同音に「細く長く生る事とを願う為」の縁起物として食すると解説している。確かにそれも一理は無いとは言えない。

かつては引越して、新居に移り住むときには「向こう三軒両隣」に、挨拶として「蕎麦券」を持ってよろしくと回つたようである。

もちろん「細く長く付き合はせてもらう」と言う意味も通用するが、私は「つなぎをする」と言う意味合いで行なうのだと聞いている。

「つなぎ」と言う言葉は、よくその筋の人達が用いるが、蕎麦はこの「つなぎ」が大切な役割をしているところからの意義があると思う。

最近では百%蕎麦粉を使用した蕎麦も打たれてはいるが、本来は二・八そばが基準的な割合である。二と言ふのが「つなぎ」の割合だ。地方によつて、この「つなぎ」に、山芋や、じねんじよ等を用いる。

新潟県十日町の蕎麦の様に、織物産業に密着して、ふのりなどが使用されている所もある。この「つなぎ」によつて蕎麦の腰が生まれ、旨味生きるのだ。それだけに種々研究された様で、去り行く年から新たな年への無事息災の願いを込めての「つなぎ」晦日そばは、この為に食するものだと思うのだが「つなぎ」とは継続なのだ。

継続は力であるとも言ふ。機関紙もまた継続こそ上達の道と言える。だが、長く続けなければ良しとは言えない、継続の中おいての変化を求めてこそ、進歩に結び付くのだ。「つなぎ」にこだわつて、新たな年を迎えた私の第一歩は、変化への挑戦の年としたい。

読書の楽しみ 山路規生

『少年H』と『オサムの朝』
最近話題の2冊の本を紹介致します
都会の神戸と、田舎の栃木県北の那須地方を舞台に、同じ時代を背景に同じ年頃の少年が成長して行く姿が、生き生きと描かれていて、昔に思い巡らしながら引き込まれて読まされた。

『少年H』 背尾河童著 講談社

背尾氏は、1930年の神戸生まれで、小学校3年生から旧制中学校を卒業して看板店に就職するまでを、ユーモラスに描いた自伝的小説である。

母親の編んだセーターの胸に、名前『肇』のイニシャル『H』が、大きく入っていたので、早速『エッチ』という仇名で呼ばれた。

又、母親の提案で大人になって困らないようにと、ナイフとフォークで食事をしていた。しかし、食事の身中は家庭の惣菜で、味噌汁もスープで飲んでいたが、これ丈は父親の反対で中止された。それもこれも、母親がクリスチャンで外国人との付き合いがあったからだとか。

これも神戸という土地柄かも。戦中、戦後の厳しい環境の中にあっても、ゆとりの学校生活などに、ある種の懐かしさを覚えながら、歴史の勉強にもなったりと、つい引き込まれた。

因みに、目次の一部を紹介します。
ナイフとフォーク／アラヒトガミ／日独伊三国同盟／一二月八日
空襲／ポツダム宣言受諾／戦災者住宅／落第候補 等。

『オサムの朝』 森 詠著 集英社
主人公の修は、四才のとき東京の家が戦災で焼け出されたため、両親と兄の4人で大田原市に引っ越して来た。

父親は、自称芸術家と言いつつ一向に描かない絵描きである。東京で、知人との事業に失敗して借金を作って帰って来て、働きもせずゴロゴロしている始末。質屋通いの竹の子生活の揚げ句、家を売って西那須野町に引っ越すことに。母親が、指圧の勉強をして自宅を開業しても、相変わらずの父親とは、口論が絶えず、やがて母親が家を出て那須温泉で働き始め離婚を迫られる事になる。

そんな中でも、修は豊かな自然と友達を相手に遅く成長し、密かにバンビと呼んでいる美雪に心を引かれて行く。

やがて卒業と共に、母親を迎えに来て黒磯の中学校に入学することになった。『おれは、どこも行がねえ』と、叫ぶのであった。

この物語が、昨年の夏から映画化され、春頃一般公開の予定。物語に出て来る那須の風景と、ストーリーがどの様に展開されるか楽しみである。

社友会ゴルフクラブ誕生から三年

三好 齊

社友会のゴルフクラブは、平成七年十月十七日、矢板カントリークラブで、第一回ゴルフコンペを開催すると同時に誕生致しました。

それから三年間、十四回のコンペを開催し、延百三十五名の参加がありました。当初は六名ほどの参加でしたが、現在は二十名でコンペが開けるクラブに発展して来ましたが、以下、コンペの概要を記します。

回数	開催年月日	開催場所	参加人員	優勝者	その他
第一回	七. 十. 十七	矢板CC	六名	三好 齊	新ペリア
第二回	七. 十二. 十一	小川CC	五名	浦川正司	新ペリア
第三回	八. 三. 十九	アローAGC	六名	中村 茂	新ペリア
第四回	八. 六. 五	塩原CC	七名	山中洋雄	以降ハンディー戦
第五回	八. 八. 二七	那須チサン	七名	土田甲子	
第六回	八. 十一. 二八	アローAGC	七名	道畑一三	
第七回	九. 二. 二七	三五メンバーズCC	六名	三好 齊	
第八回	九. 六. 三	小川CC	十名	上野 敦	優勝カップ作成 以後レプリカ贈呈
第九回	九. 八. 二八	矢板CC	十三名	三好 齊	
第十回	九. 十一. 六	馬頭GC	十三名	井村俊朗	
第十一回	十. 二. 五	サイプレスCC	十四名	柏原武司	
第十二回	十. 五. 十四	喜連川CC	十四名	岡沢幸男	
第十三回	十. 八. 二十	矢板CC	十五名	岡沢幸男	
第十四回	十. 十. 二二	馬頭GC	十二名	中村 茂	

新入会員の紹介

- ① 会員番号
- ② 氏名
- ③ 生年月日
- ④ 住所
- ⑤ 電話番号

《メッセージ》



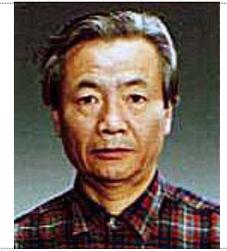
- ① 1207
- ② 村井敏一
- ③ 昭和13.2.15

二月に退職しました。なにをするのも健康第一だと思っています。自己管理を十分に行い第二の人生を充実したいものと考え、現在は水泳とゴルフで運動不足を補っています。



- ① 1208
- ② 高松勝雄
- ③ 昭和13.2.25

在職中皆様には大変お世話になりました、今後とも宜敷御願いたします。



- ① 1230
- ② 藤井恭平
- ③ 昭和13.3.28

昭和四十三年、栃木展開と同時に赴任し、シャープ勤務の大半を矢板で過ごさせて頂き、皆様にお世話になりましたことを感謝しております。退職後（一息入れまして）八月より富山へ単身赴任中です。好奇心とチャレンジ精神を失うことなく、今までの経験を發揮出来ればと願っております。



- ① 1235
- ② 平野明
- ③ 昭和13.4.8



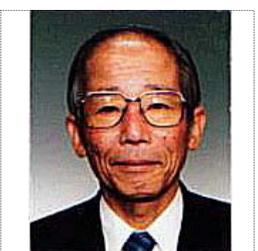
- ① 722
- ② 安東郁哉
- ③ 昭和13.5.27

この度三重県より五年ぶりに矢板に再転居して参りました。ビデオ事業部に在籍時はお世話になりましたが、またお世話になります、宜敷御願申し上げます。三重在任時は海釣りを楽しんでいました同好者がいらつしやれば是非お誘い下さい。



- ① 1273
- ② 鈴木常忠
- ③ 昭和13.7.1

朝焼けに、虫の音騒ぐ、屋敷うち。○秋雨の音に鳴きかう、雨蛙。○退職後、自分の好きな空手道をしながら、ボランティア活動の一つとして子供達とがんばっております。場所と時間は、大田原市西原小学校体育館で午後七時～九時までやっております。毎週火曜日と金曜日です。



- ① 1302
- ② 一木慎司
- ③ 昭和13.9.30

この度、九八・一〇・一、付けて入会させて頂いた一木慎司です。在職中は、約四十一年余月をテレビ、ビデオ、ビデオカメラ等、映像商品開発設計を担当させて頂いたことが出来ました。この度、無事健康体で会社を卒業することが出来ました。今後「社友会」を通じて先輩のみなさんとのよき交わりを望んでいます。宜敷指導助言を御願いたします。趣味は、魚釣り（海）・飲酒・長距離ドライブ・パソコン・カラオケ等、一通りOKです。出来れば電子メールフレンドにもなって下さい。電子メールアドレス: ikiki@olive.ocn.ne.jp 独身貴族です。気楽に遊びに来てください。宜敷御願いたします。

← 次ページに続きます。

一九七八年六月VTRの展開で赴任以来二十年、九八年十二月三日定年退職により社友会に入会させて頂きました。宜敷御願致します。今後社友会行事に参加させていただきます。顔馴染みの諸先輩の皆様にお会いできることを楽しみにしています。



① 1331
② 生嶋良幸
③ 昭和13.12.3

十一月二十六日で定年退職し、社友会に入りました。山上です。今後とも宜敷御願致します。ゴルフ、旅行、パソコン、趣味は御座いませんが、今後ゴルフ、旅行、パソコン、庭いじりなどやりたいと考えております。また近くに宇都宮市立美術館や帝京大学などが御座いますので、お越しの節はお立ち寄り下さい。



① 1324
② 山上哲夫
③ 昭和13.11.26

十年十月三日に定年を迎え現在毎日、城の湯温泉通いの生活を送っています。この度社友会の仲間に入りましたので宜敷御願致します。



① 1309
② 見形 通
③ 昭和13.10.3

《 古希のお祝い 》

会員番号	お名前	御祝いの日
341	中沢政勝	平成10年 2月 2日
247	佐々木 旦 治	平成10年 2月11日
249	印南基雄	平成10年 3月25日
248	木村 正	平成10年 3月31日
342	鈴木勝衛	平成10年 5月22日
259	野中 操	平成10年 7月22日
273	保科雄喜	平成10年12月 9日
279	吹上栄造	平成10年12月26日



編集後記

★創刊号を発行後早、八ヶ月が過ぎ、第2号の発行をするこ
とが出来ました。

★緊縮予算のため創刊号に比
べページ数は大幅圧縮、カラー
のページも絞ったため出稿いた
だいた方々の美しい写真もモノ
クロとなり、出稿の意図が十分
表現出来ず、申し訳なく思っ
ています。

★冊子が薄くなった代わりに
内容を充実させるよう努力し、
投稿下さった方々も力作を寄
せて戴いた為、大変中身の濃い
冊子が出来たと思えますと共に
寄稿者に心から感謝していま
す。

★第3号は総会の日にお渡し
出来る様発行の計画を立てて居
ますので、明日といわず今日に
でも寄稿下さいませ。御願
い申し上げます。原稿の締切は
三月十日頃になります。

★寄稿の内容は、趣味、人生
観、世相論、生涯学習、各見聞
録、ボランティア活動...等々、
なんでも結構です。

★締切を過ぎた原稿は次号に
掲載させていただきます。振るって
寄稿を御願いたします。
『みんなで育てて楽しい会報』

「編集子一同」